

## 11. 放射線治療 RIS の導入

岡本 雅彦, 羽生菜穂子, 張 大鎮  
唐澤 克之 (都立駒込病院 放射線診療科)

【目的】放射線治療 RIS (Radiology Information System) を導入したので, その概要について報告する. 【方法・結果】当院では 2004 年 8 月より電子カルテが稼動している. 2005 年 7 月より放射線治療業務・会計業務の効率化, ペーパーレス・フィルムレス化, 患者データベースとの統合などを目的として放射線治療 RIS・PACS を導入, 使用している. また, 2006 年 1 月からは病院内で診断用画像のフィルムレス運用が開始されている. 放射線治療 RIS を導入してから半年が経過したが, まだ移行期にありその適切な使用については模索しているところである. RIS 導入前後でのワークフローの変化, 電子カルテとの連携などの現状について述べる.

## 一般演題 (新しい試み)

座長 仲本 宗健 (伊勢崎市民病院)

## 12. 群馬県産青梅の加熱濃縮果汁「ミサトール」の抗腫瘍効果に関する臨床的検討

鈴木 良彦  
(国立病院機構高崎病院 放射線科)  
水田 敏信, 大澤 立志, 足立 太郎  
大坂 和久, 足立 正一  
(日本アプリコット株式会社)

【目的】我々は, 本研究会において, 末梢血中の顆粒球とリンパ球の比 (G/L 比) が担癌宿主にとって重要であり, 特に顆粒球の減少が予後の改善につながるとの発表をおこなってきた. 基礎的研究により, 「ミサトール」が顆粒球のアポトーシスを誘導し, ヒト癌細胞 (KATO III, HL-60) の増殖を抑制することが示唆されたことから, 臨床的検討を行った. 【方法】進行・再発癌症例に, 「ミサトール」1 包 (5 ml) を 1 日 2 回投与し, その画像ならびに腫瘍マーカーの経時的変化を観察した. 【結果】平成 17 年 4 月から 8 月までに「ミサトール」が投与された 5 症例中, 3 症例に腫瘍抑制効果が認められた. 肝臓癌 TAE 後再発症例では, 腫瘍マーカーの著しい低下が認められた. また, 膀胱癌放射線治療後再発症例においては, 腫瘍マーカーの低下とともに, CT 画像上でも, 腫瘍の縮小が認められた. 【結語】「ミサトール」の担癌症例に対する抗腫瘍効果が示唆された.

## 13. 当診療所におけるリンパ浮腫治療のとりくみ

塩島 和美, 内田真理子, 塩島 正之  
(しおじまクリニック)

乳癌や子宮癌の治療後などにおこる上下肢のリンパ浮腫は, 進行すれば患者の QOL を極端に低下させ, ときに蜂窩織炎や, ごくまれには血管肉腫を合併することを, われわれ放射線科医は比較的多く経験していると思われる. リンパ浮腫の治療法としては複合的理学療法がほぼ確立しているにもかかわらず, 多くの病院では十分なケアがなされていないのが現状である. その理由として, 日本では理学療法の手技やこれにかかる材料費が保険適応でなく, また多忙な病院の診療に組み込むにはスタッフの確保が困難な点が挙げられる. 当診療所は昨年 5 月の開業当初から専任の看護師をフェルディ式理学療法施設での教育訓練に派遣し資格を得たうえで, 最近ようやく治療の体制を整えたところである. 当診療所でのリンパ浮腫治療のとりくみの現状と展望を報告する.

## 14. 前立腺癌ヨウ素125シード永久挿入療法の初期経験 第 2 報

河村 英将, 仲本 宗健  
(伊勢崎市民病院 放射線科)  
村松 和道, 牧野 武郎, 齊藤 佳隆  
内田 達也, 竹沢 豊, 小林 幹男  
(同 泌尿器科)  
秋元 哲夫 (群馬大院・医・腫瘍放射線学)  
伊藤 一人 (群馬大医・附・泌尿器科)

【目的】当院では 2005 年 4 月より前立腺癌ヨウ素 125 シード永久挿入療法を行っており, その初期治療について報告する. 【方法】Postplan が終了している 14 例について検討した. 年齢は 54~77 歳, 臨床病期は T1c 9 例, 2a 3 例, 2c 2 例, PSA は 3.6~9.4, Gleason score は 6 が 11 例, 7 (3+4) が 3 例, 前立腺体積は 12~42cc であった. 術前ホルモン療法は 7 例で行われた. 全例小線源療法単独で, 処方線量は 145Gy とした. 【結果】Postplan における平均 V100, D90, 尿道 D5, 直腸 V100 はそれぞれ 91%, 151Gy, 221Gy, 0.48cc であった. 7 例で線源の迷入, 4 例で線源の脱落を認めた. 1 例で術後せん妄, 1 例で一時的なバルーン留置を必要とする尿閉を生じたほかは問題となる有害反応は認めていない. 【結語】症例数は少なく観察期間も不十分であるが, 現在まで大きな問題なく施行できていると考えられた.